

2026年度青山学院大学一般選抜（個別学部日程）

教育人間科学部心理学科

小論文

【記述式問題】

〈出題の意図やねらい、入学者に求める力〉

日本語の文章を論理的に読み解き、その理解に基づいて、自分の考えを適切な表現で展開できる能力が求められる。また、人の心や社会問題に対する関心および知識を持っているかを問う。提示されたデータから情報を読み取り、その情報および自分の知識に基づいて論理的に考える力があるかを判断する。

【設問Ⅰ】

設問Ⅰの意図・ねらいは、問題文の読解に基づいて、文章全体の要旨を把握できているか、論理展開が再現できるか、筆者の意図を的確に抽出できるか、問題文の要求に基づく思考を経由して適切な答えを導き出せるか、文章内容を応用する形で自分の考えを（単なる感想や意見ではない思考を）正確な日本語で記せるか等々を、字数制限のある記述式の問題によって判定することである。

設問Ⅰの文章は、基本的な英単語（anything）を入り口にして、新たな概念（any-ness）を導入した説明文である。設問Ⅰでは、正確な文章読解に基づいたうえで、新たな概念（any-ness）に含まれている考え方（否定性と可能性）を明示的に引き出し、それを論理的な文章で説明できる文章構成力が求められている。

設問Ⅰの問いでは、「否定性」や「可能性」のそれぞれが、「any-ness 任意性」において、どのように潜在的な仕方働いているかを、指定された例（{A,B,C,D,...}という集合）を利用して、適切な日本語で文章化する力が問われている。

【設問Ⅱ】

設問Ⅱでは、厚生労働省「新しい時代の働き方に関する研究会」の報告書（令和5年度に公表）に掲載された就労・労働価値観に関する調査の結果を分析・考察し、字数制限内で論述する能力を判定する。

問1では、2つの図から読み取れることをまとめて記述することが求められる。過去約20年間の就労者の就労・労働価値観の変化を捉えた上で、現代の若者（中学生・高校生・大学生）の就労・労働価値観を読み取る必要があり、情報を整理し的確に記述する能力が求められる。理解度を判断する基準としては、価値観の経時的な変化を正しく捉えられているか、多面的に読み取れているか、読み取った内容を適切にまとめられているか、などが挙げられる。

問2では、問1で読み取った内容を踏まえて、若者にとってのよりよい働き方はどのようにしたら実現できるかを論理的に考え、提案する能力が問われる。データから読み取れることを基に考察を深め、発展させる必要がある。雇用者側がすべきこと、若者側が自主的に取り組むべきこと、学校教育として対応すべきことなど、複数の観点から論じることのできるデータの理解度だけでなく、社会についての知識や関心の程度も判定することがねらいである。